

## 追 補

本白書における2005年の合計特殊出生率は概数となっているが、本白書発刊時に確定数が公表されたので、以下のとおり、確定数に置き換えた記述も掲載する。

概数と確定数では、合計特殊出生率の算定に用いる女子人口が違っており、前者は平成12年国勢調査に基づく推計人口、後者は平成17年国勢調査の結果を用いている。また、都道府県別の合計特殊出生率の算定に用いた人口は、概数では外国人を含む総人口、確定数では日本人人口であり、日本人人口は総人口より少ないため、全ての都道府県の確定数は概数より上昇している。

なお、詳細は「平成17年人口動態統計（確定数）の概況」に記載されており、厚生労働省ホームページ（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei05/index.html>）にも掲載されている。

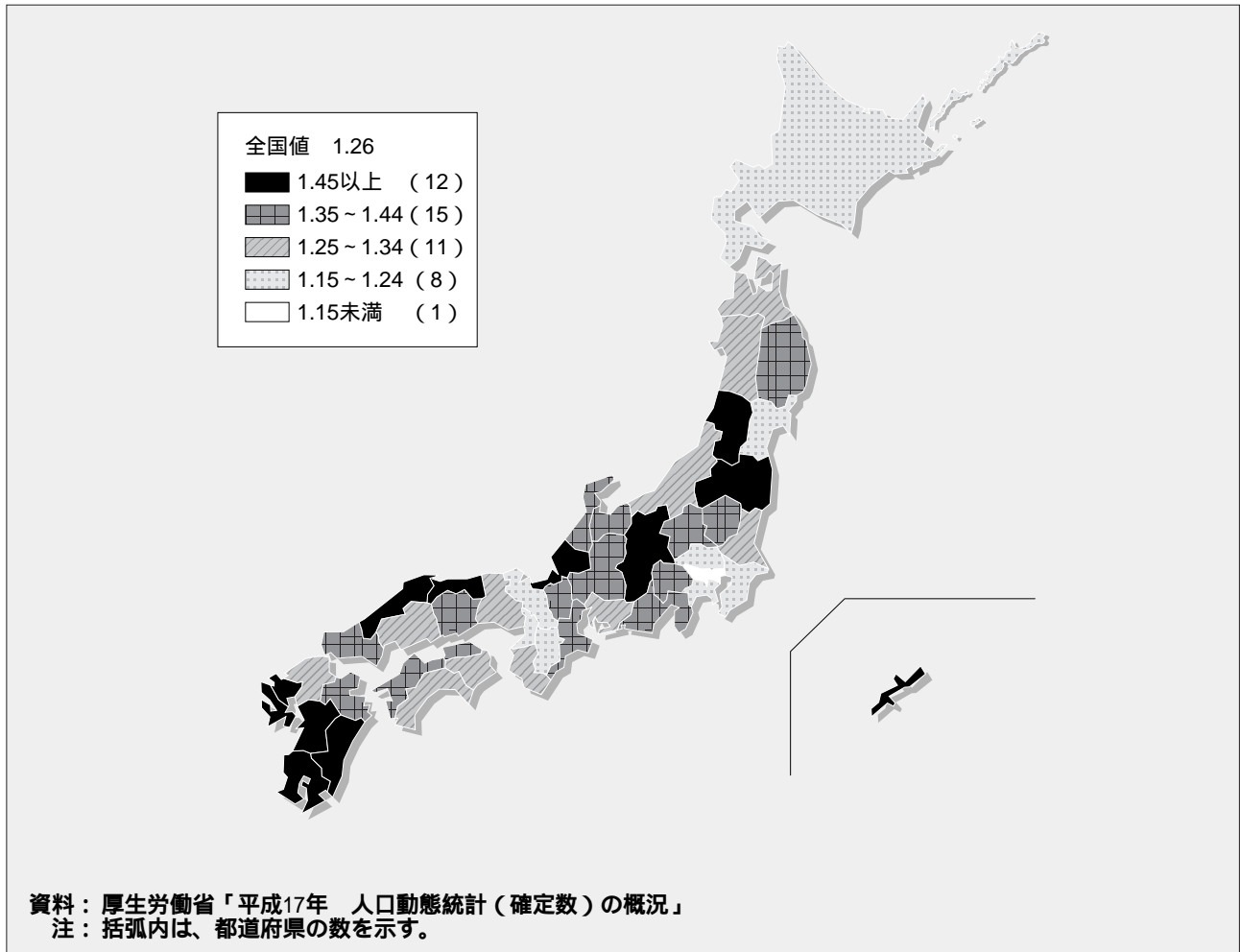
箇所	確定数	概数
P 2 左21行目～	前年の1.29をさらに0.03ポイント下回る1.26となり、過去最低を記録した。	前年の1.29をさらに0.04ポイント下回る1.25となり、過去最低を記録した。前年を0.04ポイントも下回ったのは1999（平成11）年以降のことである。
P 2 右15行	2005年の1.26という数値	2005年の1.25という数値
P 3 第1 - 1 - 1図	（2005年の合計特殊出生率）1.26	（2005年の合計特殊出生率）1.25
P 13 左4行目～	2005（平成17）年の全国の合計特殊出生率は1.26であるが、これを上回る都道府県は35、同じ都道府県は2、下回る都道府県は10であった。この中で合計特殊出生率が最も高いのは沖縄県（1.72）であり、以下、福井県及び島根県（1.50）、福島県及び鹿児島県（1.49）、佐賀県及び宮崎県（1.48）の順となっている。最も低いところは、東京都（1.00）であり、以下、北海道（1.15）、京都府（1.18）、神奈川県及び奈良県（1.19）と、大都市を含む地域となっている。	2005（平成17）年の全国の合計特殊出生率は1.25であるが、これを上回る都道府県は34、下回る都道府県は13であった。この中で合計特殊出生率が最も高いのは沖縄県（1.71）であり、以下、福井県（1.47）、福島県及び宮崎県（1.46）、鳥取県、佐賀県及び鹿児島県（1.44）の順となっている。最も低いところは、再び1を下回った東京都（0.98）であり、以下、奈良県（1.12）、京都府及び北海道（1.13）、大阪府（1.16）と、大都市を含む地域となっている。
P 13 左15行目～	2004年に比べて出生率が上昇した団体は、22団体であった。2004年の対前年（2003（平成15）年）比較では、東京都、千葉県、富山県、愛知県、香川県、長崎県、宮崎県の7都県で上昇していた。なお、前年からの下落幅が一番大きい都道府県は、青森県の0.06ポイントの低下であった。	2004年に比べて出生率が上昇した団体は、福井県のみであり、他の団体はすべて前年の数値を下回った。2004年の対前年（2003（平成15）年）比較では、東京都、千葉県、富山県、愛知県、香川県、長崎県、宮崎県の7都県で上昇していた。なお、前年からの下落幅が一番大きい都道府県は、青森県及び徳島県の0.10ポイントの低下であった。

P 14 第 1 - 1 - 15 図	別図 1 参照	
P 14 左 2 行目 ~	全国平均では、0.65ポイントの低下となっているが、最も大きな落ち込みとなっているのは沖縄県であり、1.16ポイントの低下となっている。	全国平均では、0.66ポイントの低下となっているが、最も大きな落ち込みとなっているのは沖縄県であり、1.17ポイントの低下となっている。
P 15 第 1 - 1 - 16 図	別図 2 参照	
P 16 コラム 1 行目 ~	福井県は、2005（平成17）年の合計特殊出生率が1.50と、島根県と並び、沖縄県の1.72に次いで全国 2 位となっている。	福井県は、2005（平成17）年の合計特殊出生率が1.47と、沖縄県の1.71に次いで全国 2 位となり、全都道府県の中で唯一、出生率が前年と比べて上昇した。
P 33 右 7 行目	合計特殊出生率は1.26	合計特殊出生率は1.25
P 99 第 1 - 5 - 10 表	（日本の合計特殊出生率）1.26	（日本の合計特殊出生率）1.25
P 114 コラム最終行	日本は1.26	日本は1.25
P 115 右 1 行目	わが国は1.26	わが国は1.25
P 115 右 26 行目 ~	わが国（2005年の1.26）	わが国（2005年の1.25）
P 116 第 1 - 補 - 5 表	（日本の合計特殊出生率）1.26	（日本の合計特殊出生率）1.25
P 116 第 1 - 補 - 6 図	（日本の合計特殊出生率）1.26	（日本の合計特殊出生率）1.25
P 219 表	（2005年の合計特殊出生率）1.26	（2005年の合計特殊出生率）1.25
P 226 表	（2005年の全国と都道府県別合計特殊出生率） 別図 2 参照	

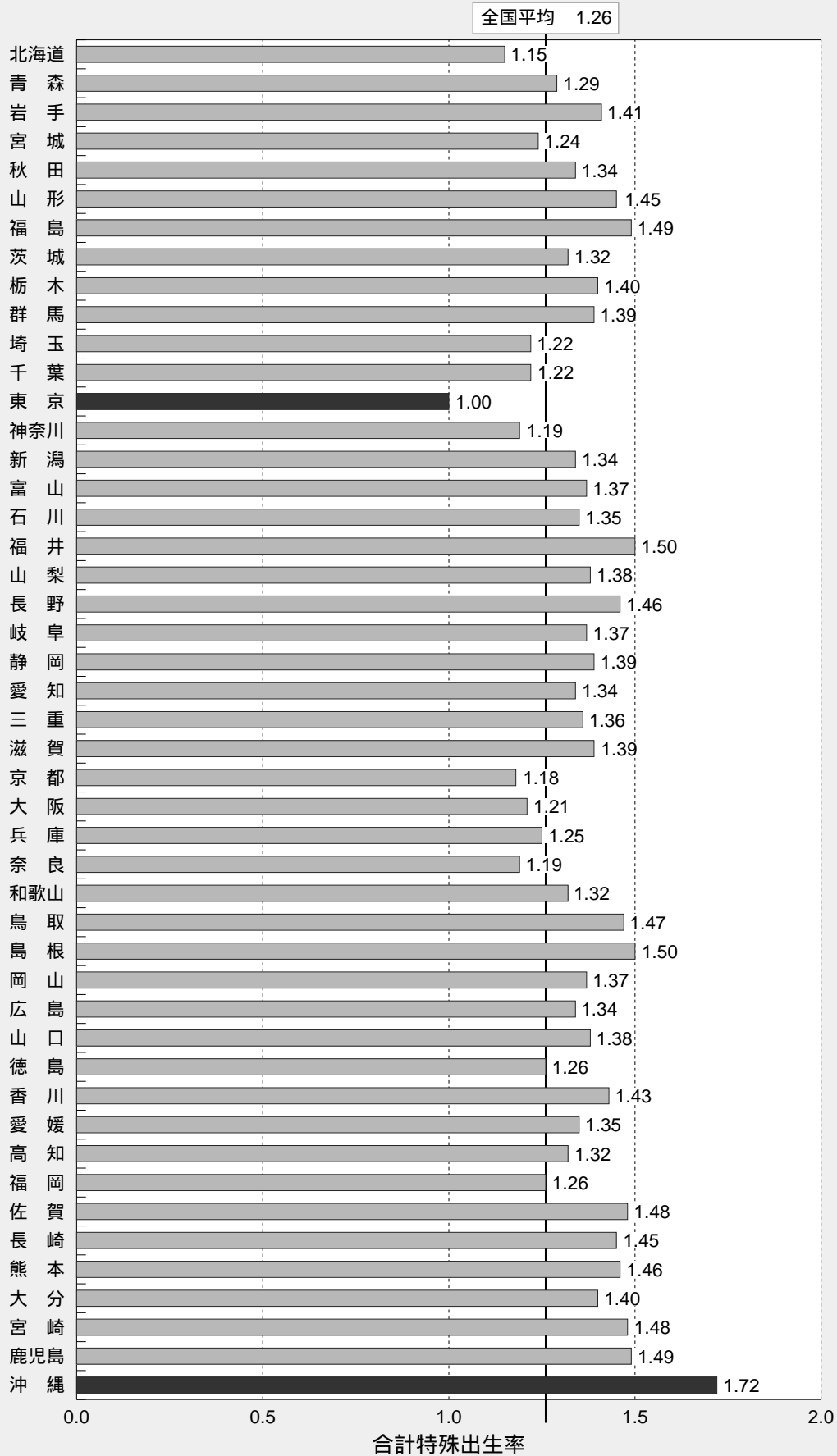
## 正誤表

箇所	正	誤
P 92 コラム 3 行目	核家族世帯の割合が最も高かったのは1965（昭和40）年であり、	核家族世帯の割合が最も高かったのは1975（昭和50）年であり、

別図1



別図2



資料：厚生労働省「平成17年 人口動態統計（確定数）の概況」